

氏名(本籍)	まつ だ わ か 松 田 和 香 (秋 田 県)		
学位の種類	博 士 (社会工学)		
学位記番号	博 甲 第 3059 号		
学位授与年月日	平成15年3月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	社会工学研究科		
学位論文題目	道路計画プロセスにおけるPIの評価		
主査	筑波大学教授	工学博士	熊谷良雄
副査	筑波大学教授	学術博士	大澤義明
副査	筑波大学教授	工学博士	石田東生
副査	筑波大学講師	博士(工学)	岡本直久
副査	筑波大学助教授	工学博士	生田誠三

## 論文の内容の要旨

本論文の目的は、以下の3点である。まず、PI (Public Involvement) 評価の考え方を体系的に整理し新たな方法論として提案すること、この評価の考え方に基づき我が国の社会資本整備におけるPIの実施実態の把握と課題抽出を行うこと、そして、広域道路のPIに着目しその実施実態の把握および実施上の具体的な知見を得ることである。

第1章の研究の目的等続く第2章では、PI評価の考え方の整理・構築のために参加や合意形成に関わる既存研究を、主として評価の目的、視点、方法という観点から整理している。

第3章では、第2章で行った既存研究による分類に基づき「PIの実施実態の把握と課題抽出」、「PIの機能や事例特性の抽出」、「個別計画のPI実施効果の検証」、「PI技法に関する知見の抽出」という4つのPI評価の目的を設定している。さらに、「手続正当性の確保」、「目的合理性の確保」、「信頼構築・教育効果」という3つの基本となるPI評価の視点を整理している。また、PI評価の方法では、「主観的基準」と「客観的基準」を採用し、先に設定した4つの命題毎に既存研究の方法論等を参考としてその考え方を示している。

第4章では、我が国の社会資本整備の計画プロセス全体を対象として「PIの実施実態と課題抽出」を目的とした評価を行っている。PC (Public Comment) 手続を対象とした政策段階の分析では、提供情報の内容が難しいこと、行政からの回答は多くがQ & A式で行われている一方で「聞きっ放し」も存在するなどの課題を抽出している。対話型行政推進賞応募事例を対象とした施策・計画段階の分析では、用いられているPI手法が特定のものに偏っていること、事後評価はほとんど行われていないこと等の課題を抽出している。

第5章から第7章までは段階的な道路計画を対象として、実施実態の把握および実施上の具体的な知見を得ようとしている。道路審議会建議策定過程を対象とした第5章では、国民の意見が建議や新道路整備5ヶ年計画へ反映され、国民と審議会間のコミュニケーションが成立していることを検証している。広域道路事業33事例を対象とした第6章では、構想段階からPIが導入されていること等を明らかにした上で、進行中の千葉柏道路におけるPI事例を対象に、信頼構築を図るためには「対面式の対話」の効果が大きいことや、紙面の情報提供では頻度や質の高さが重要であり、周知実態を改善するためには身近かつ定期的な広報などの手段が有効であることなどを示している。

第7章では、広域道路と共通の目的を持つ都市計画マスタープランの関連活動に着目し、分量が多い資料は敬遠されがちな印象はあるものの、PIプロセスや内容を明記することによって十分に読んでもらえることや、関心・信頼等の意識向上がより期待できることなどが明らかにされている。

第8章では、結論と今後の課題を述べている。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、各種公共政策・計画に導入されつつあるPI (Public Involvement) を対象として、広範な文献および事例サーベイを基に、PI評価の考え方を体系的に整理し新たな方法論を提案し、社会資本整備の計画プロセスを対象に政策段階と施策・計画段階における現状の整理と課題の抽出を行っている。さらに、政策・計画段階別の道路計画を対象に、事例研究も踏まえ、PI評価の具体的な長所と短所を明らかにしており、理論的および実践的な側面の双方を備えている意欲的な論文である。

しかし、計画プロセスの各段階における検討事項とPIとの融合を目的として評価を行う必要があること等包括的な計画プロセスへの提案に具体性が欠けること、計画策定中の事例を対象としているため計画の進展に伴ったPI評価の変化の可能性などを把握しきれていないなどの課題が残る。

以上、本論文で得られた新たな知見・成果から見て、本論文は博士（社会工学）のための学位請求論文として十分な水準に達していると判断できる。

よって、著者は博士（社会工学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。